

Cadenza CD-C18

500 x 4.6 mm

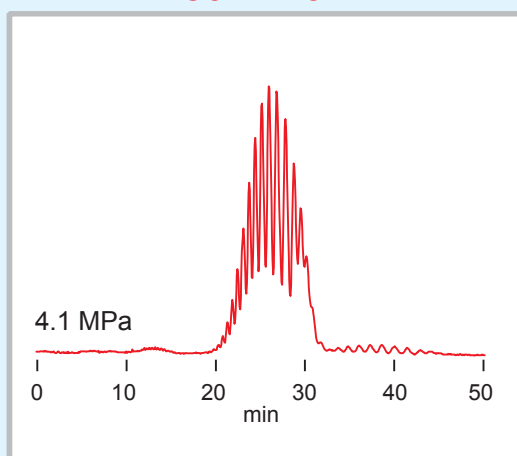
Technical

10万段カラムによる界面活性剤の高性能分離

究極の3 μ m技術・・・精密分離に威力を発揮します

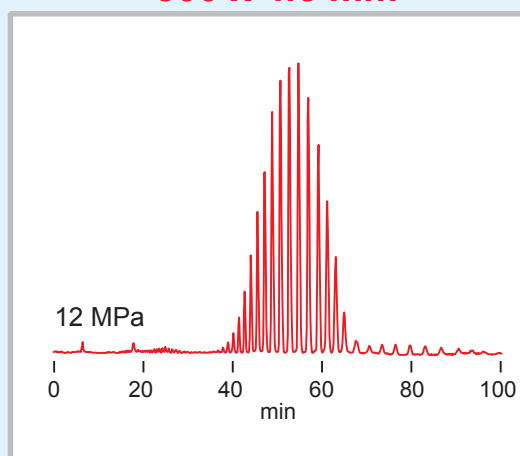
Conventional 5 μ m ODS

250 x 4.6 mm

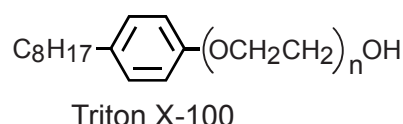


Cadenza CD-C18

500 x 4.6 mm



water / acetonitrile = 35 / 65
0.5 mL/min, room temp., 254 nm



理論段数10万段を有するCadenza CD-C18を用いた精密分離の例です。

界面活性剤であるTriton X-100は重合度の異なるポリオキシエチレン鎖を含み、ODSカラムでは分離が困難な化合物のひとつです。

上図のように、一般的5 μ mODSカラムによる分離では重合度差の認識は不十分です。これに対してCadenza CD-C18の500 x 4.6 mmカラムでは、ほぼ完全分離が達成できています。

Cadenza CD-C18は固定相の特性として、従来よりも分子認識能が優れており、さらに500 x 4.6 mmカラムは出荷時約10万段という抜群のカラム効率を有することから、Triton X-100においてもオキシエチレン鎖の認識ができていると考えられます。

理論段数10万段のカラムは、精密分離が必要な構造異性体分離や多成分系分離において、従来のカラムでは分離困難な場合に威力を発揮します。